

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370076

研究課題名(和文) 日本近世の神仏習合思想とその展開

研究課題名(英文) Combinatory Religious Practices in Early Modern Period.

## 研究代表者

曽根原 理 (SONEHARA, SATOSHI)

東北大学・学術資源研究公開センター・助教

研究者番号：30222079

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：3年間にわたる活動によって、日本思想史のミッシング・リンクとも言われる近世の習合思想について、多面的な研究を行うことが出来た。具体的には、『大成経』やそれを広めた依田貞鎮の著作、当時の聖徳太子信仰、地域で活動した寺院の蔵書調査などを実施した。

そしてその成果を、論文や口頭発表によって公開した。特に2015年の国際会議、2016年の学会報告(パネルセッション)、2017年の国際学会報告(パネルセッション)、2018年刊行予定の編著などが主要な成果として挙げられる。

研究成果の概要(英文)： During this three year project, I have successfully carried out research from a variety of angles on Buddhist and Shinto combinatory thought (Shugo Shinto), the so-called “missing link” of Japanese Intellectual History. My main focus was on the Taisei-kyo 大成経 and the works of YODA Sadashizu 依田貞鎮 that helped to popularize it. I investigated the cult of Prince Shotoku at the time of this popularization, and examined archive documents held in temples associated therewith.

The results of the project have been made public in academic papers and presentations. Of particular note are an international meeting in 2015, academic conference report (panel session) 2016, international conference report (panel session) 2017, and an edited volume due for publication in 2018.

研究分野：日本近世思想史

キーワード：神仏習合 山王神道 東照宮 大成経 聖徳太子信仰 依田貞鎮 談義所 天海

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本近世の思想界について、以前は仏教ないし宗教の果たした役割が過少に評価されていたように思われる(辻善之助、丸山眞男らの議論など)。しかし最近の研究史は、「近世思想の主流は仏教から儒教へ」といった議論は批判の対象となり、むしろ中国儒学と日本儒学の本質的な相違が存在し日本社会の大陸的な儒学の受容には限界があったこと、近世社会でも仏教や神道が受容されていた側面が明らかになり、近世は仏教と神道の時代であったとの指摘が現われている(尾藤正英、大桑斉など)。

(2) こうした議論を実証的に検証していく上で重要なのは、確立された近世初期のイメージに引きずられず、実態解明が比較的遅れている近世中後期の宗教を扱うことであろう。その際に、「淫祀邪教」とされ儒学者や国学者など、さらにその系譜を引く近代の学問から排除された対象であった世界を扱うこと、すなわち神仏習合思想に注目することが有効であると考えられた。

## 2. 研究の目的

(1) 近世の神仏習合思想についての先行研究は管見の限り決して多くない。その中で、概観を試みているのが河野省三である。河野は、「三教一致思想が近世初頭の宗教界を支配する勢いを示した」という前提のもと、三教一致論に二つの流れ 吉田の唯一神道、「仏教家側」の神道 を指摘する。そして第二の流れの、代表として『大成経』(1679年以前成立)、近世の先頭走者として天海(1536~1643)の山王一実神道を挙げている。事実『大成経』に親しんだ人々には、天海の神道説の受容が認められ、河野の指摘の有効性を裏付けている。

(2) 『大成経』の成立・布教に大きな役割を担った人々に注目し、彼らの間では、諸教一致論の立場をとり、徳川体制を擁護する姿勢が共通して見られること、さらに彼らには、思想傾向だけでなく、自ら偽書を編みまた(『大成経』も含む)偽書を熱心に広めた行動様式も共通して見られることから、彼らを近世思想史の主要な一員として検討することに着手したい。

(3) 思想が機能した環境についても目配りが必要であることから、近世中後期の仏教教団の動向、在地社会における仏教の受容なども、あわせて解明していく必要がある。

## 3. 研究の方法

(1) 近世中期に、天海に親近感をもち、『大成経』を奉じる、一群の思想家たちが存在し

た。そうした思想家たちの中で、依田貞鎮(1681~1764)を中心にとりあげ、彼の著作とその影響関係にある著作の発掘および分析を行いたい。現在、国会図書館には依田の著作『霊宗全書』61冊が残されている。大量であるだけでなく、周辺知識が乏しかったことから、全体として分析対象とされた例を知らない。しかし、聖徳太子の隠された秘書と称され、近世社会で影響力が強かったといわれる『大成経』の注釈書として、本書以上のまとまった著述群は見られない。そこで、『霊宗全書』を本格的に分析することを試みた。

(2) 一方で、そうした思想潮流が近世社会でどのように受容されたかも、あわせて解明に着手する。本来は様々な階層や位相を分析することが望ましいが、投入可能な時間や労力、経費を考え、関係の深い寺院史料を対象とし、中央の大寺院に残された文書など、および地域の中核的寺院の文書、の二つを調査し検討する。前者については叡山文庫、後者については代表的な談義所寺院として知られた滋賀県の成菩提院の近世資料を扱う。二つの性格の異なる史料群を比較しつつ分析することで、依田に代表される近世中後期の習合思想がどのように広がりを見せたかについて、解明できると考えた。

## 4. 研究成果

(1) 依田貞鎮関係文献(国会図書館所蔵『霊宗全書』61冊など)の収集と分析を行った。『神経教箋』『先天本紀箋』など『大成経』の注釈的性格の書や、『山王一実神道秘録』といった天海の思想に連なる書があり、それらと性格の重なる聖徳太子信仰の資料もある。東京と関西を中心に、そうした資料の収集を行い、内容の整理と分析を進めた。

(2) 神仏習合神道の思想が、どのような広がりを持ち、どの程度の変容を示していたかを探るため、中央の大寺院と地域の中核寺院の両者の蔵書調査を行った。天海の思想系譜が主流となることから、対象とする調査地点は天台宗寺院(の旧蔵書)を主とし、前者は叡山文庫、後者は成菩提院(滋賀県米原市)の調査を実施した。

蔵書の調査は、一、二年では成果が出ないため、本研究に特化したリスト作成や書誌調査を実施する。研究代表者単独では困難なため、研究分担者(すべて関西在住)/連携研究者や研究協力者の協力を得た。また、叡山文庫も成菩提院も、多くの歴史的な文書を所蔵し、その内容は思想の基盤とも関わることが予想されるので、歴史文書の調査等について連携研究者の朴澤氏を中心に、青柳周一(滋賀大学・教授)、梅田千尋(京都女子大学・准教授)、東幸代(滋賀県立大学・准教授)などの関西の研究者に研究協力者として加

わって頂き調査を進めた。

(3) 成果報告として、2015年5月にドイツ・ハイデルベルク市で、ハイデルベルク大学「グローバルコンテクストにおけるアジアとヨーロッパ」研究チームとの共催でワークショップ「日本史における神仏習合」を立ち上げ、本科研のメンバー4名を含む10名以上の研究者が報告などを実施した。ついで2016年10月に日本思想史学会の大会(於関西大学)において、パネルセッション「近世化する日本社会の中の宗教」を実施した。その成果をもとに、ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)に応募し、採択された結果、2017年9月にポルトガル・リスボンで開催される学術大会において Japanese Religion amid Early Modern Social Transitions と題するパネル報告を実施することになった。さらに、寺院資料調査の成果報告として科学研究費補助金の研究成果公開促進費に応募し採択された結果、曾根原が代表をつとめる研究会の編著として、『天台談義所 成菩提院の歴史』を刊行することになった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

曾根原 理、鹿兒島東照宮の成立 - 百回忌法会を中心に -、季刊日本思想史 82、2017、査読無、印刷中(掲載決定)。

曾根原 理、史料紹介 明治二年成菩提院第四十五世孝健『入院諸記録』、東京大学史料編纂所研究紀要 27、2017、査読有、pp.160-170。  
<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/publication/kiyo/kiyo0027.html>

松本公一、いけばな史研究の現状と課題、文化環境学 5、2017、査読有、pp.1-14。

モリス・ジョン、日本と欧州の比較文化史からみる「中世」の意味をめぐる一考察、日本文化研究 12、2017、査読無、pp.28-53。

曾根原 理、日本近世の神仏習合神道と東アジア思想、文芸研究 182、2016、査読有、pp.28-39。

曾根原 理、宗教と信仰、高橋充編『東北近世の胎動』吉川弘文館、2016、査読無、pp.167-192。

曾根原 理、狩野文庫所蔵『天体靈魂図説』について、東北大学附属図書館調査研究室年報 3、2016、査読無、pp.133-136。  
<https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=p>

[ages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=66144&item\\_no=1&page\\_id=33&block\\_id=38](https://www.kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/handle/10112/10177)

松本公一、後桜町天皇の葬送と池坊、文化環境学 4、2016、査読有、pp.1-39。

松本公一、『阿婆縛抄』所収修法記小考、文化学年報 65、2016、査読無、pp.345-371。

大島薫、成菩提院所蔵「題未詳聖教」紹介 - 伝存聖教から柏原談義所を復元する -、国文学 関西大学国文学会 100、2016、査読有、pp.137-144。  
<http://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/handle/10112/10177>

青谷美羽、明治三年の本山派宗則、本山修験 202、査読無、2016、pp.37-41。

曾根原 理、伊勢神宮と東照宮、島蘭進ほか編『將軍と天皇』春秋社、2014、査読無、pp.55-79。

[学会発表](計15件)

Sonehara Satoshi、Disavowing Oral Transmissions、15th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)、September 2nd 2017、Lisbon; Portugal。

Matsumoto Koichi、Esoteric Ritual Procedure Manuals in the Early Modern Period、15th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)、September 2nd 2017、Lisbon; Portugal。

Oshima Kaoru、Late Medieval Transitions in Buddhist Preaching、15th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)、September 2nd 2017、Lisbon; Portugal。

曾根原 理、東照権現の成立 - 山王神の系譜から - (基調講演) 神道宗教学会第70回学術大会、2016年12月3日、国学院大学; 東京。

Sonehara Satoshi、The Deification of Tokugawa Ieyasu and Religious Observances at the Tōshōgū、Durham University Tokugawa Conference (400th Anniversary of the Death of the first Tokugawa Shogun: The Life and Legacy of Tokugawa Ieyasu)、June 7th 2016、Durham; England。

松本公一、密教次第テキストの近世、日本思想史学会 2016 年度大会(パネルセッション)、2016年10月30日、関西大学; 大阪。

大島薫、唱導を事例に考える、日本思想史学会 2016 年度大会( パネルセッション )、2016 年 10 月 30 日、関西大学；大阪。

モリス・ジョン、『黄金伝説』にみる大衆化する神学、日本思想史学会 2016 年度大会( パネルセッション )、2016 年 10 月 30 日、関西大学；大阪。

Jon Morris、Toward a Social and Intellectual History of Mokuji, 2nd EAJS Conference in Japan、2016 年 9 月 24 日、神戸大学；兵庫。

モリス・ジョン、木食に関する一考察、日本宗教学会第 75 回学術大会、2016 年 9 月 10 日、早稲田大学；東京。

Sonehara Satoshi、The Lineage of the Sanno Deity、International Association History of Religious (IAHR) Quinquennial 21th World Congress、August 28th 2015、Erfurt；Germany。

曽根原理、聖徳太子伝説の近世的展開、合同ワークショップ「日本史における神仏習合」、2015 年 5 月 29 日、ハイデルベルク；ドイツ。

松本公一、室町文化の歴史的意義(招待講演)山名氏歴史講演会、2015 年 11 月 28 日、池坊短期大学；京都。

大島薫、儀礼における神仏習合、合同ワークショップ「日本史における神仏習合」、2015 年 5 月 29 日、ハイデルベルク；ドイツ。

青谷美羽、19 世紀日本における修験道の組織と実践の変容、合同ワークショップ「日本史における神仏習合」、2015 年 5 月 29 日、ハイデルベルク；ドイツ。

〔図書〕(計 3 件)

成菩提院史料研究会(代表：曽根原理)編、天台談義所 成菩提院の歴史、法蔵館、2018、400(予定)(刊行決定)

大島薫編著、寂照山成菩提院所蔵『悟鈔』影印 翻刻、関西大学出版部、2017、202

むこうまち歴史サークル・向日市文化史料館編・青谷美羽校訂、中久世村平松家領分役務記録、向日市文化資料館、2016、52。

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

曽根原理 (SONEHARA Satoshi)  
東北大学・学術資源研究公開センター・助

教

研究者番号：30222079

### (2)研究分担者

松本 公一 (MATSUMOTO Koichi)  
池坊短期大学・教授  
研究者番号：60442258

大島 薫 (OSHIMA Kaoru)  
関西大学・文学部・教授  
研究者番号：50319604

青谷 美羽 (AOTANI Miu)  
京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師  
研究者番号：10578719

モリス・ジョン (MORRIS Jon)  
駒沢女子大学・人文学部・講師  
研究者番号：50774163

### (3)連携研究者

朴澤 直秀 (HOZAWA Naohide)  
日本大学・法学部・教授  
研究者番号：70377696

### (4)研究協力者

青柳 周一 (AOYAGI Shuichi)  
滋賀大学・経済学部・教授  
研究者番号：40335162

梅田 千尋 (UMEDA Chihiro)  
京都女子大学・文学部・准教授  
研究者番号：90596199

東 幸代 (AZUMA Sachiyo)  
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授  
研究者番号：10315921

林 晃弘 (HAYASHI Akihiro)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：10719272

松金 直美 (MATSUKANE Naomi)  
真宗大谷派教学研究 所員  
研究者番号：10549554

万波 寿子 (MANNAMI Hisako)  
龍谷大学 文学部 非常勤講師  
研究者番号：なし

和田 有希子 (WADA Ukiko)  
群馬県立女子大学・文学部・非常勤講師  
研究者番号：なし

川嶋 貴美子 (KAWASHIMA Kimiko)  
同志社大学・大学院博士課程単位取得退学  
研究者番号：なし